

製造業のビジネスチャンスが見える
モノづくり最新情報サイト
じゃぱんお宝にゅ〜す
<https://japan.otakaraneews.com>

じゃぱんお宝にゅ〜す

モノづくり現場の未来を見つける
製造業応援サイト
じゃぱんお宝WEB新聞
最新情報満載！好評配信中！

日立建機

米州市場向けダンプトラック本格生産

米州市場でダンプトラックの現地生産・サービス体制 2026年度より本格的にダンプトラックを現地生産開始

日立建機トラック 現地で本格生産

日立建機株式会社(執行役社長兼COO：先崎 正文氏)は、米州市場向けの鉱山用AC駆動式ダンプトラックの現地生産・サービス体制を構築するため、ダンプトラックの保守サービス部品の生産や再生を行う100%子会社である日立建機トラックLtd.(本社：カナダ・オンタリオ州、社長：岸田 郁夫氏)で、2026年度より本格的にダンプトラックを生産開始することを決定した。

米州市場における 販売・サービス強化

日立建機グループは、2022年3月より米州全域で自社のネットワークを通じて、新車販売からバリューチェーン事業(※1)までの独自展開を開始している。今回の決定により、米州市場の旺盛な需要に応じて、ダンプトラックの現地生産・サービス体制を構築し、現地の市場ニーズに迅速に対応し、現

地の調達率を引き上げると共に、ビジネスの独自展開を加速する。

ダンプトラックを カナダで現地生産

北中南米全体で世界のダンプトラック(150t以上)市場の約4割(※2)を占め、特に南米市場は今後も需要拡大が見込まれる銅・鉄鉱石・金などのハードロックが多く採掘されている。

日立建機グループは、これまで常陸那珂臨港工場(茨城県ひたちなか市)でダンプトラックを生産し、世界中に供給してきたが、米州市場向けダンプトラックをカナダで現地生産することで輸送日数を短縮し、顧客ニーズに合致した製品をスピーディーに供給する体制を構築する。

高い品質及び サービス確保

カナダで生産するダンプトラックは、メインフレームなどの製缶構造物、エンジン、ラジエーター、その他の部品

を現地調達することで現地での調達率を上げるとともに、キーコンポーネントは日本から輸入することで、日本国内生産のダンプトラックと同等の信頼性を確保する。

さらに、設計者をはじめとするエンジニアが日立建機トラックに常駐することで個別の車体の仕様変更に対応し、顧客ニーズに合った製品と質の高いサービスを提供する。

2026年度に 本格生産開始

日立建機トラックは、1988年に日立建機が経営権を取得したEuclid-Hitachi Heavy Equipment Inc.(ユークリッド日立社)が前身。かつてはダンプトラックを生産していたが、2018年度にダンプトラックの生産を休止し、それ以降は、既納機用サービス部品の生産、超大型油圧ショベルとダンプトラック向け部品の再生を行っている。

今後、2026年度のダンプトラックの本格生産開始に向けて従業員数を2倍に増やし、体制の強化を図っていく。

2023年度から始まった日立建機グ

ループの中期経営計画「BUILDING THE FUTURE 2025 未来を創れ」では、経営戦略の4つの柱の中に「米州事業の拡大」を掲げており、2025年度に独自展開分のみで米州売上収益3,000億円以上をめざします。

日立建機トラック概要

- ▶所在地：200 Woodlawn Road West, Guelph, Ontario N1H 1B6, Canada (カナダ・オンタリオ州ゲルフ市)
- ▶代表者：取締役社長 岸田 郁夫
- ▶設立年：2004年
- ▶面積：土地111,000㎡、建屋36,000㎡
- ▶投資額：9,500万円
- ▶事業内容：米州向け150t以上のダンプトラックの製造、サービス部品の生産、超大型油圧ショベルとダンプトラック向け部品の再生
- ▶従業員数：約100人(2024年2月時点)
※2026年度には約200人に増加する予定

(※資料提供：日立建機)



日立建機トラック(カナダ・オンタリオ州)

■日立建機URL→ <https://www.hitachicm.com/global/jp/>